

法苑珠林

下

73

6905

3



門 7 3
號 6905
卷 3



諸君當用集卷之下

書法之目錄

料紙諸色并々紙合の次第

色紙書々の次第

短尺書々の次第

口書々の本々付々の次第

書物外題の次第

法目録個々の次第

懐紙々々々の次第

名札の次第

書狀徳々の次第

文取の次第

四丁目

六丁目

七丁目

十二丁目

十三丁目

十五丁目

十六丁目

十七丁目

十八丁目

十九丁目

分類
番号 439 (3)
通番



49-2633

同封巾の次

十八丁目

同綴付の次

十九丁目

同箱敷土付調の次

二十丁目

同曲物土付調の次

同

同巻物土付調の次

同

同土紙土付の次

二十一丁目

同関字の次

二十二丁目

同平出の次

同

同假名文の次

二十四丁目

同和紙懐紙の次

同

同御子調の次

二十六丁目

同詩り紙の次

二十六丁目

同制札調の次

二十七丁目

同香紙紙調の次

同

同包紙土付の次

二十九丁目

同色名紙の次

同

同封巾の次

三十丁目

同書状調の次

同

同吊紙の次

三十四丁目

同造物紙の次

同

同傳五徳調の次

三十五丁目

同添く字の次

同

同上下文字の次

同

同以上と先の次

同

書と先文字の次頁

三十六丁目

上中下と綴付個中の次頁

同

返札綴附の次頁

同

尋常と文字の次頁

同

挿文字の次頁

二十七丁目

去来と文字の次頁

同

奉と字の次頁

同

推との次頁

同

封条個中の次頁

二十八丁目

封条札の次頁

同

封条物札の次頁

二十九丁目

封条の次頁

同

十二支の次頁

同

四方に漏る文字の次頁

同

法馬と中の次頁

四十丁目

封条と中の次頁

同

能書組と中の次頁

四十五丁目

以上五拾一ヶ條

詩禮遺用集卷下

三

諸論當用集卷之十

料紙端作糸曲尺合く次

一 端作心糸交言の長短より一寸八分も二寸六分も又
片手らせしむと壘み物として又口らせしむ指図
みも明くくし

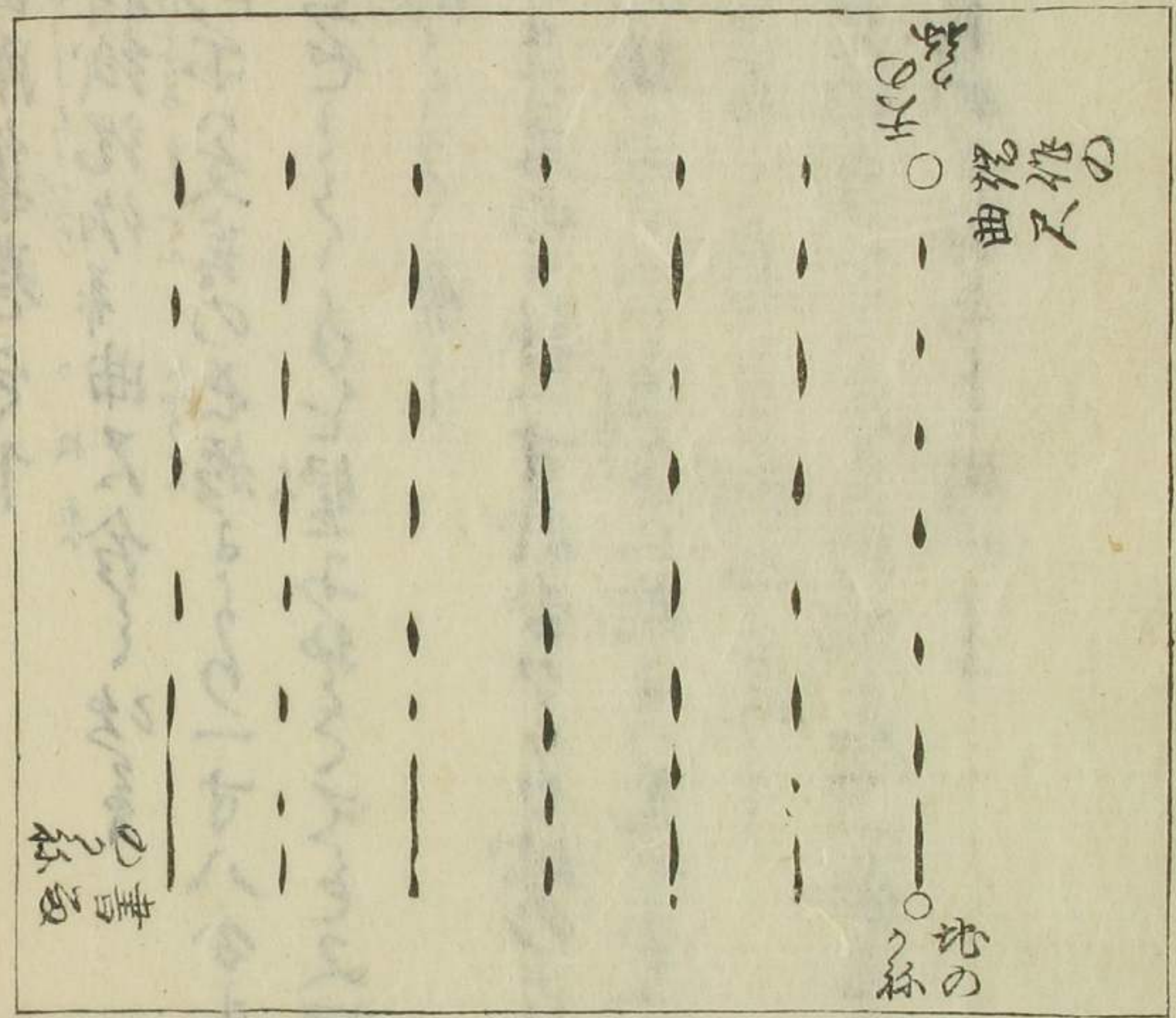
一 堅紙よハエの寸紙一寸五分より地の寸紙七八分も

一 横物の紙多しハエの寸紙二物よハエ七分地五分何れかの
みくも右しをより別物とす

一 書と免の端とハ口免の糸一寸五分も一寸二分も又
字糸の寸紙もとす

の
作
尺
曲
花
○
H

の
杯
○
H



書
の
紙

色紙の寸法

色紙の寸法

色紙の寸法

色紙の寸法

色紙の寸法

色紙の寸法

色紙の寸法

右の色紙は古紙書にあり白分の縁が去つていゝ
人界の事ありとを色紙にすべし

諸凡書用紙

五

色紙寸法あり

色紙寸法あり

色紙寸法あり

色紙寸法あり

色紙寸法あり

色紙寸法あり

色紙寸法あり

官よりり自他の功とせむるもゆきよはあざむくし
好ゆごとく表向ききむとどく

短尺よりこやうの決り

一 秀のげいもせむらふしるの
いふかありく世のしとゆ

右右分とせられた下の白と一字さげくせ

名新名
み文字 七文字 みる
セりー 七もー

右短尺より自分のりうもせあり上の白下の白うん
そゆくと下の白もせとゆく名新うく類と二字

うらうは一初はせ五七はあぐの白新もくも
初はせ一女中うらふくと書

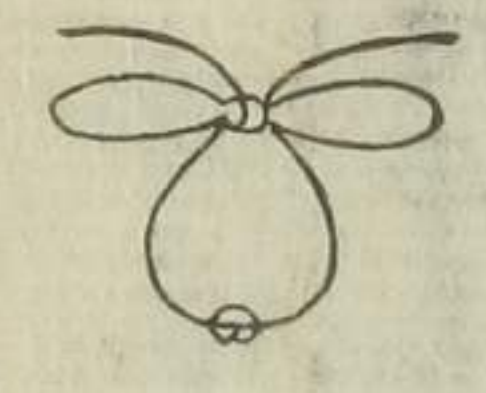
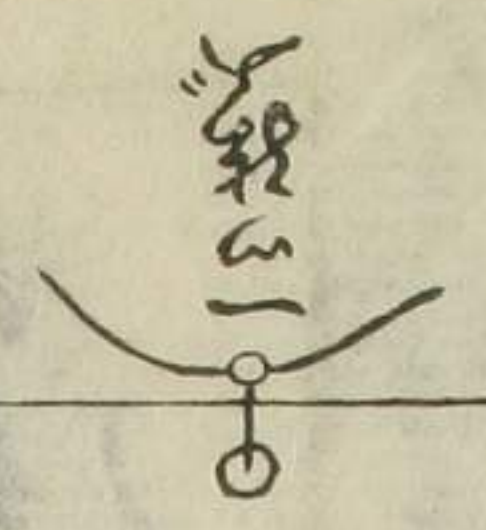
ん知
ん不知

右寸法は長一尺一寸五分二寸五分中一尺一寸八分九分
一尺二寸五分中二寸五分も

は短尺の決り

一 短尺より自他
官とあましく何故もはあぐあり但しの字よあうさる
やうよとどく

一本の枝分ぎは付るゝたへ上の方紙うらうらな名一分行で物
 久一を指目の紙とよ定^{わか}めくありと色一枝は付て風
 小初くゆうはゆうくあまの紙と

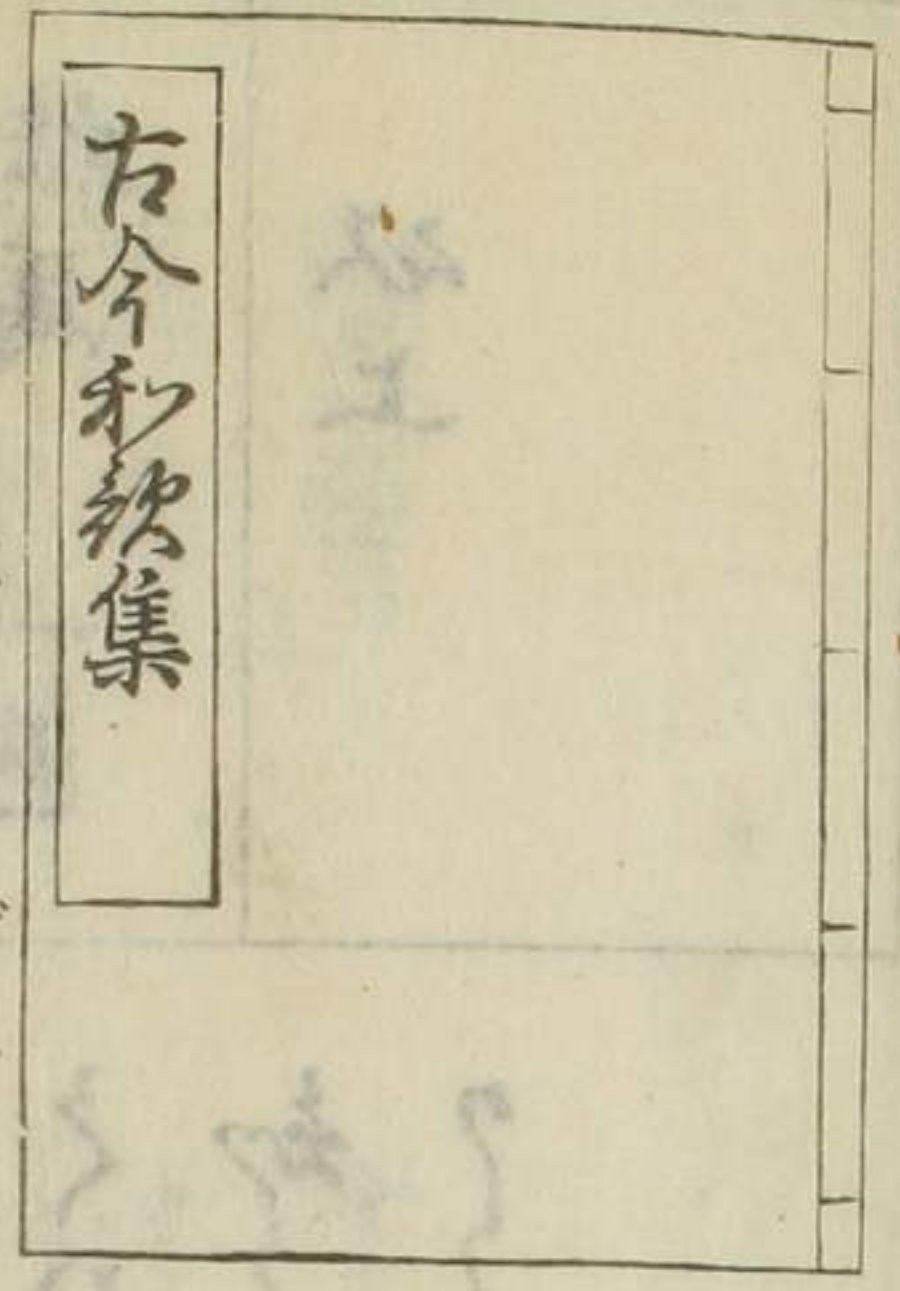


ゆうふんゆき

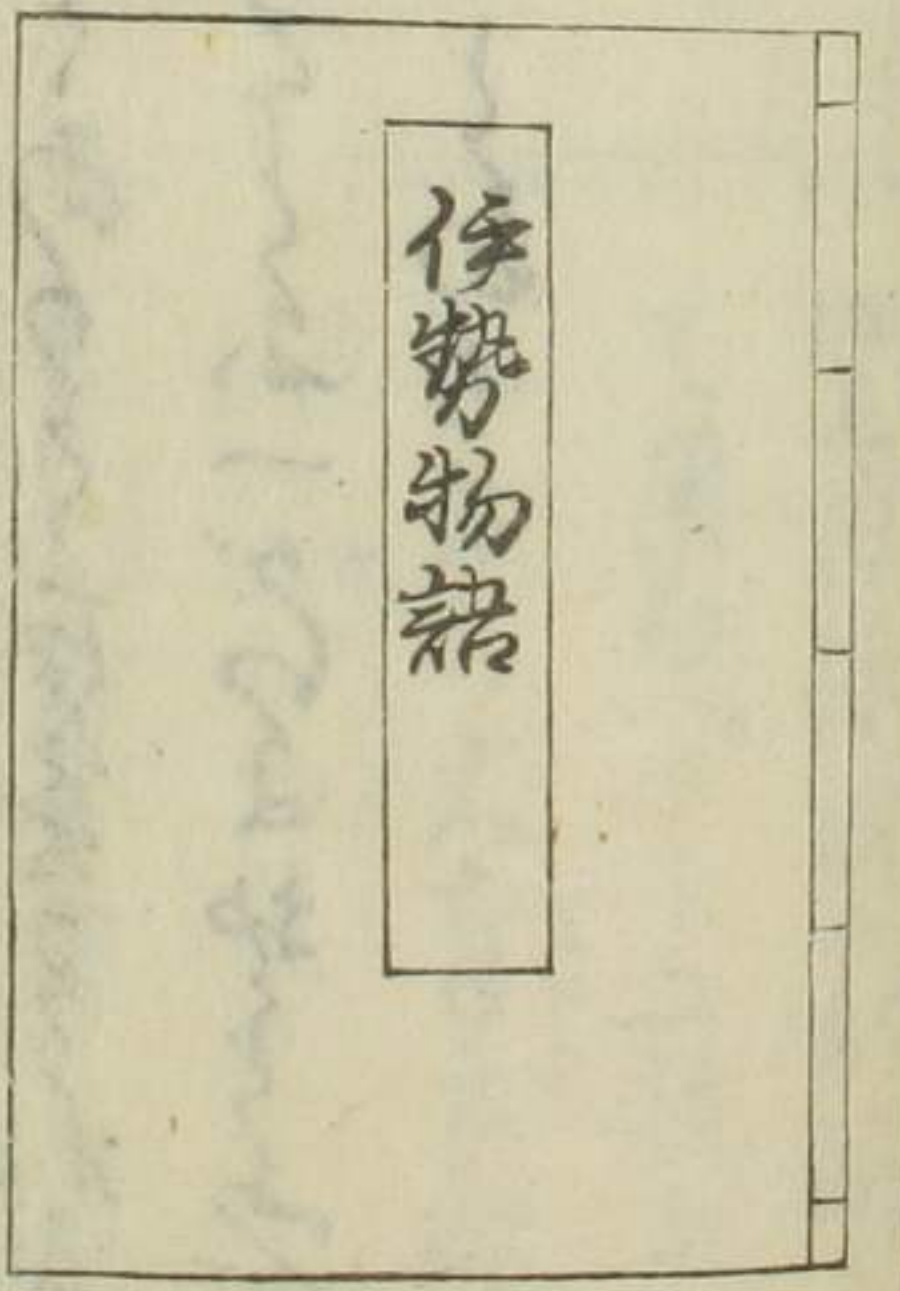
書物類外紙うたやうの決意

一本の外類うたやうあやうあ物ごりの類の表紙のま^ひあ^り
 よあべー

古今和歌集



伊勢物語



右の紙の表紙の外紙紙んか記録表紙よあまの紙と
 扇^{あふ}物うたやうの裏よまあり折^やるあまの紙と
 うらうらまの紙と
 又花を或い山水を紙と
 色うらまの紙と
 もほいんゆき

昔の書物

二

諸国採銅の次第

進上	御太刀 一腰	御馬 一匹	
----	--------	-------	--

一 物紙同採紙の太きものころへ
 出やう糸くははる
 一 古刀馬の外物紙同採用ひざり
 一 古例あきどと古世の賜書
 一 用かてとありんよよと
 一 所あそららそとを器もああり
 一 くのあくありく古きころん
 一 知らるるころ一づは地とあ
 一 ころんとあり

蟹牙 十把
 昆布 十把
 塩綱 十枚
 鰯 十連
 厚 一番
 赤朽 五荷
 乙上

十把 十把 十枚 十連 一番 五荷

一 蟹牙採紙の分限は紙で
 て用ひ一ニ枚きひ
 一 太きもの太きをわくへ平
 人のきくもあべ一中有
 去引合小き去扱るる
 志るふへ一あたるなる
 紙と用ひへ中き去の太
 一 用ひとさるる用ひ
 一 用ひ

昔川常用集巻下

目錄

小袖 紅綾
紅麻子

一重

銀子

二拾枚

市杓

一荷

以上

何れ何れ

一 當代通用の物とむき

あるべし 摺去小目錄也

去又進上志ん上死である

へ時直よりるべし

一 堅目錄の以上この上の字

書くこととあやう好ま

仕用い

一 團より名字系らび名紙

くしてあはれと時直よ

ころるべし

一 傾名とく物くへの上と

くはるころるべし

あはれ以上と

一 乙上は一字下ケ二字下ケ

或は半字下ケ死してあ

率の上中下の品目

ありあり

一 摺へ何れも目錄みくも

るりよあへし 斗摺り

一 荷と去へし たへ五外

摺りへし 一對 一摺あ

去とのん

市あふ

一箱

世心

二組

市あふ

一對

己上

并 籠

一組

沙 酒

一樽

己上

以上トモ

一 是種二種のト記ハカ
右の方より目又云
三種五種等ハ籠の
ト云ハ見合云ハト

目録覚

一 琴

一面

一 手箱

一雙

一 衣架

一具

一 擔笥

二荷

一 長持

三掉

一 葛籠

二荷

己上

けり名書

海女目録云々ト上可
一の字云々のト折紙の
目録ありト云々ト
ハ均あり
一 手箱の名が通り云あり
去形云々ト云々ト
云々ト云々ト云々ト
云々ト云々ト

諸凡書用集卷一

- 一 麻上下 一具
- 一 好織 一領
- 一 帯 二幅
- 一 小袖 二重
- 一 綿 六把
- 一 裾指 一襦
- 一 産子 十兩

以上

一 摸目録と云ふ書を注文と云ふ
 けし紙の紙一枚もくもくあり
 どもあり一枚の紙もくもくあり
 去留りうへに枚ありありも
 くれく口の雨とやらしてあり
 一 是も注文目録あり

- 一 摸目録と云
 - 一 綯 一物
 - 一 上下 一具
 - 一 端緬 二毫
 - 一 好二重 二丈
 - 一 袴袴 一袴
- 常通信五細考久
 目録考存の云

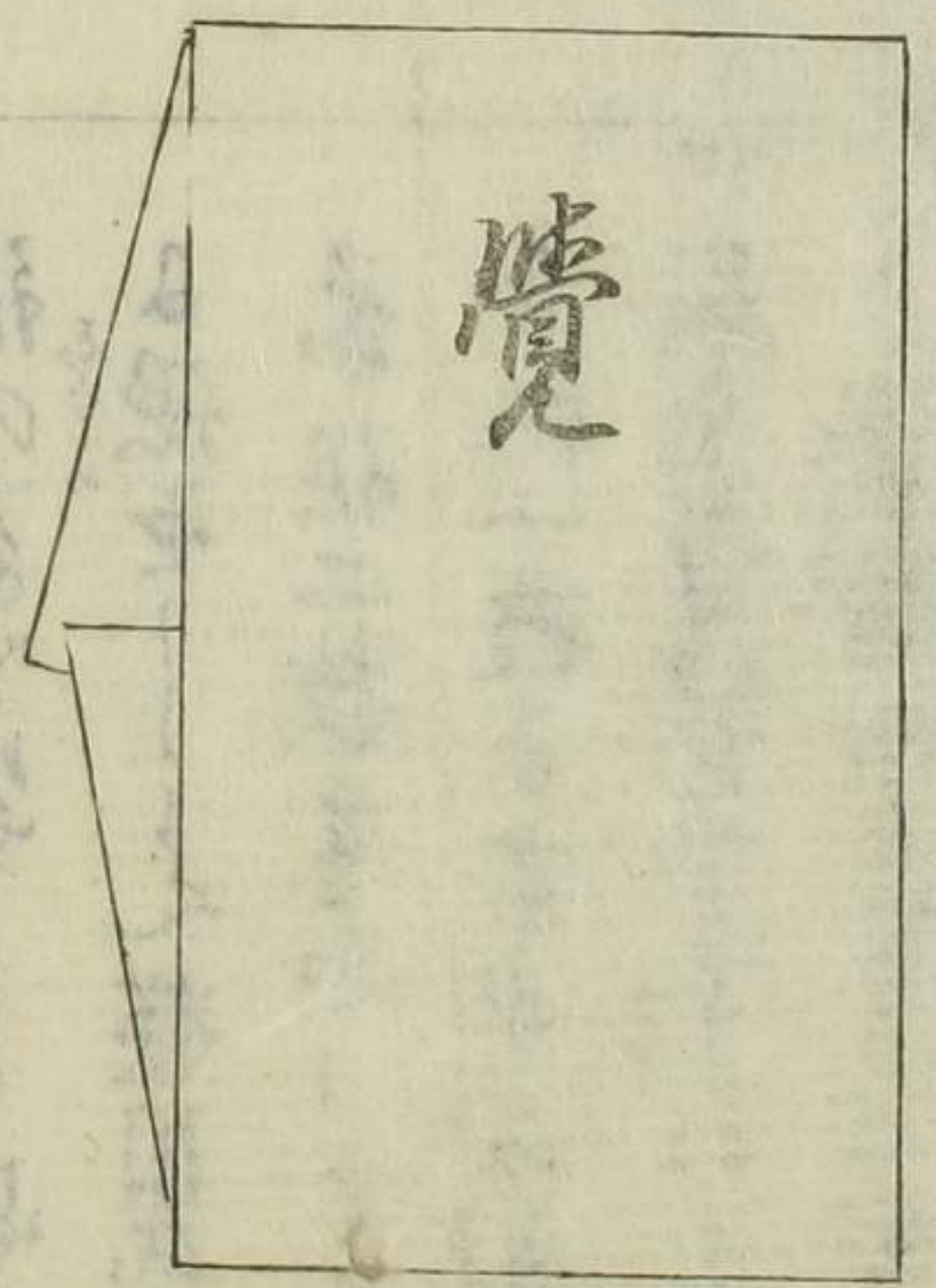
月日 何系

一 傳名物としてあるは先く目
 録の色と字と云ふもの
 一 徳を云はば摸目録とい
 前但二枚ありありあり
 下の一枚は云ふちあり
 一 今うの傳名は先の名と云
 ても前の名が有りあり
 一 是を主人の世の傳名あり

昔凡書用集卷下

一 宛 一 宛
 何種の宛
 一 枚 十 枚
 何種の宛
 一 振子 三 枚
 何種の宛
 右に通達する入品
 貴久目物宛文宛
 之はの上
 月日 何種
 何種 何種
 何種 何種

一 折目録伝書とは何れ但先より何種宛
 何種宛ありある所と先の名と上り
 古手宛の名とややく
 一 上色の紙より馬の...



目録宛宛と書

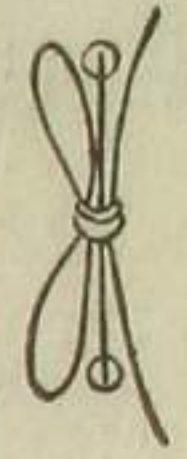
礼儀希注文目録

一 宛	一 宛	一 宛	一 宛	一 宛		目録宛
一 宛	一 宛	一 宛	一 宛	一 宛		
一 宛	一 宛	一 宛	一 宛	一 宛		
一 宛	一 宛	一 宛	一 宛	一 宛		
一 宛	一 宛	一 宛	一 宛	一 宛		

一 紙を去或は折る事も...
 何枚も重移くとも...
 ありありと上の方より...
 又結びる...
 一 者...
 一 上の方より...
 一 下の方より...

諸事書用集卷十

目録宛宛と書



何々何々

一 何々何々も何々何々何々
何々何々何々何々何々

何々何々

献上

何々何々

我々何々一 小文字何々

く何々のまよさげし献上

進上何々よまをまへ人

よかたあり

礼礼何々いふへあまへ

あくも人のままを指

並礼あり

何々の名字とよくけく

名の何々何々何々の名字

とつた何々と

何々何々何々の

何々何々

何々何々何々

何系家本
何之何系

一家札前の心印あり但
官家の清家本への何
言部内記くち武家
といふかーまひあ

一家札のゆふくた我たの方先様は法入るか人のちよひんら
やうよとらありあもをるづきを妻しくいそ始考ど
うやうのゆひせー人のいーありさるやうよとらー

書状徳中うの次り

一 聖文の天の糸一寸二分づり地の糸七八分あをり合さる
べー端依のらいー一寸五分或ハ八分あをり言よらるべー
紙のふちを松りうホらるー
一 徳中幸の書状を物の目物考ふりりさく海分書云の

つとらふかやうは婚儀よいあるまらうー紙をさるよさるべー
ゆふる文書のあれたやうはあらくらー筆紙書上いーあぶ
はいさははるきやうら

一 二水は雲のゆあをりまゆー上水のた際後云月日け二水
の雲あくーく回ー指はんびべーを家名を雲のうとら
ふやうよむりーの上水の名の上薩上進上ぶどのあく申どら
らり状文のまをんと上水とらる

一 候名状のゆふかまく浦さうりーくもゆあいらまやかくさゆ
ありとら角の文とらふとらばはひは筆あるべーさあて
りあはらうひとらふとらまあるべー事多ああはと書と女
申方のあくまのゆらるべー

一 折紙状とらふとら物あり標文とらとら細やう天の糸六七分地

ふいぬのそあり但名の下の方よりさくはまるとい
くを又形なきいとせありひりそありはたの方よりせ
そ持る氣はたれおほひりいひおとせあり

文形と次第

- 一 天化の曲尺はあまのこころ一す二分斗下七八分あり
- 一 二所のくは合縁のてし
- 一 円方名方の名さくよとゆるやうふ口の方より折く
- 一 書判本紙の字はよりがく下ゆるよんはへ下ゆるをては
り判きくせあり

一 賢文と書

Faint bleed-through text from the reverse side of the page.

筆の曲尺
二寸一
寸一

一 筆跡のついで

一
一
一
一
一

と書儀云

何と書

名書判

月日
一
一

何某云
美くく中

筆跡のついで
一
一

表

何系様

系字留印

名系

裏

夕

何系

右のり封状上中下の決多ううの方の夕同きくたふ
中うよ折と上之中の寄のてく下の中程うらりらん地
あふー封紙の長紙多ふべー

抄とて

おー

ら

何ー

う

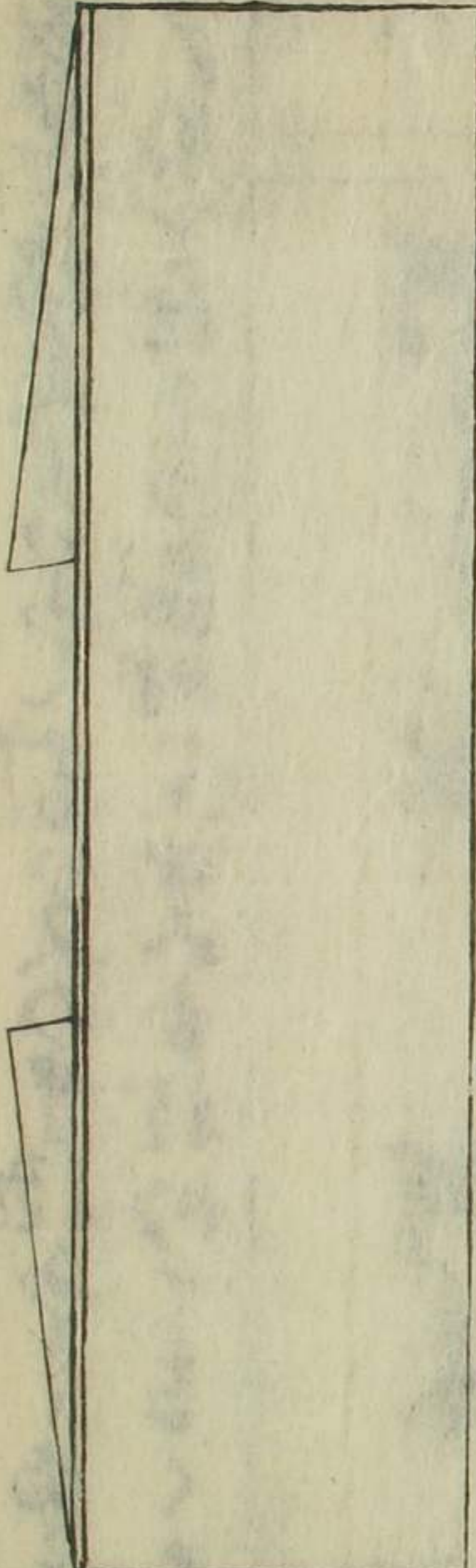
何りり何り

夕

ら

夕の
うと

一 撰文上げと折方左のてくー文親又入時分と長紙多く包



上下
折と

詩不堂用算卷下

詩不堂用算卷下

一切封状あまをい摺文とらふて書い文の中綴みくぬきく
うふ夕目とはらり書附の上口を分記明て書くまて

表

何一様

系

何系

裏

夕

右日用のふきよと書替るまうみく男女とと綴りあり
或らうた綴り切くううの方みくのりふて付らあま使の
うておと書替る男女のふみく

抄とて

お

の

ゆ

か

夕

何一様

うふまくのりあま
とら

綴付の次身女状あまを上包あまをまへ上中下へんり
うりまやうい書替るの文字まくおッへ

何一様

系

ゆのてくまとよくまもよ

何一様

系

まのへんあま

綴り書用集

十九

おー
おー
おー
おー

右曾女さうぢうのふ相さうぢう意いは銀付ぎんづきのたさへ
おさうぢうとくはさへおさうぢう

何屋極

糸竹いとたけの中

何屋極

糸竹いとたけの中

何屋極

山田やまだの中

何屋極

山田やまだの中

右みぎ何なに屋や大おほ極ごくと志しあり
是こゝ竹たけの意いは准のりてんてんのさへ

箱はこ類るい之の付つけ個こ中ちゆうの次つぎ也なり

一ひと足あしある筈はずは板いた目め接つはさへ

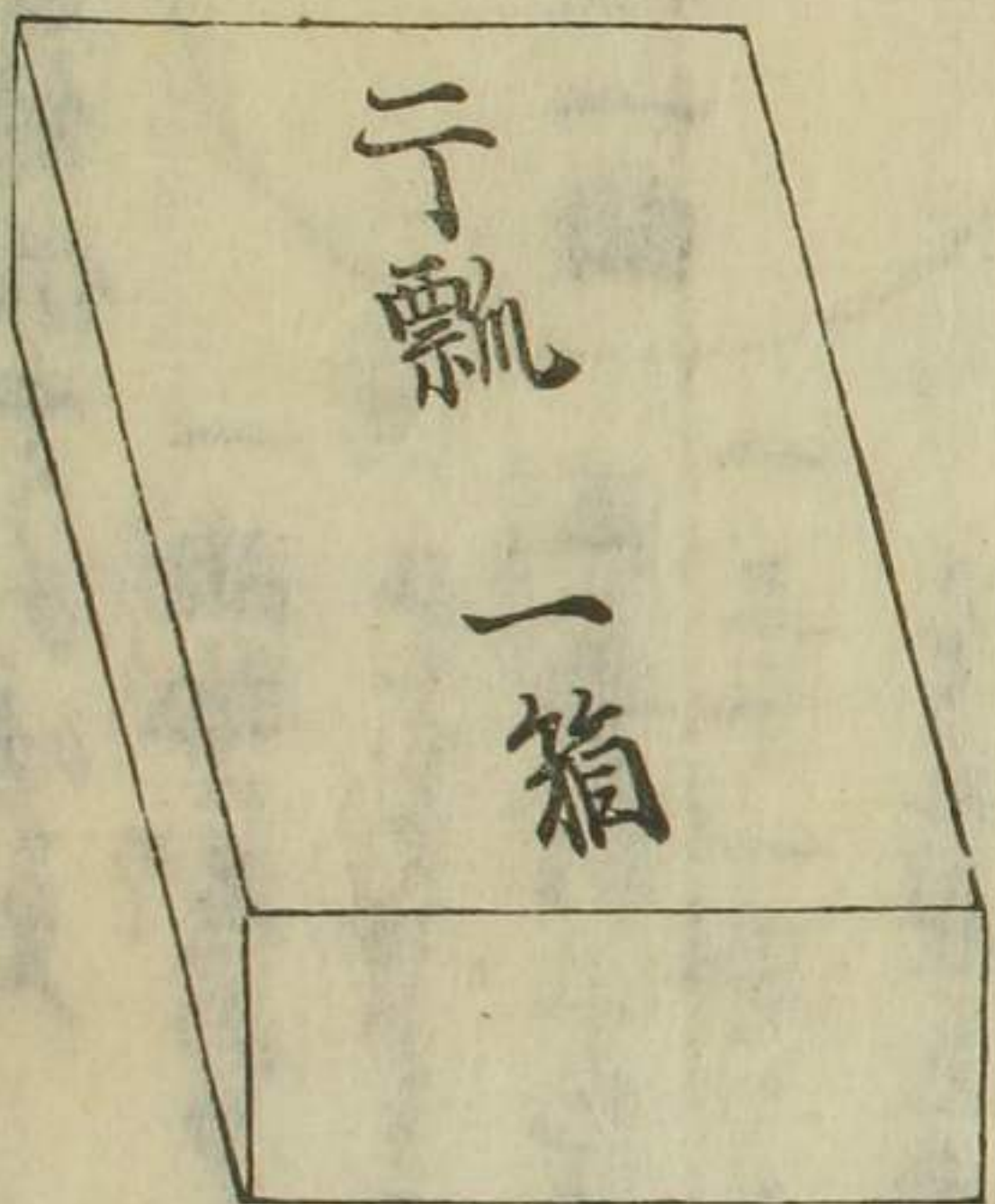
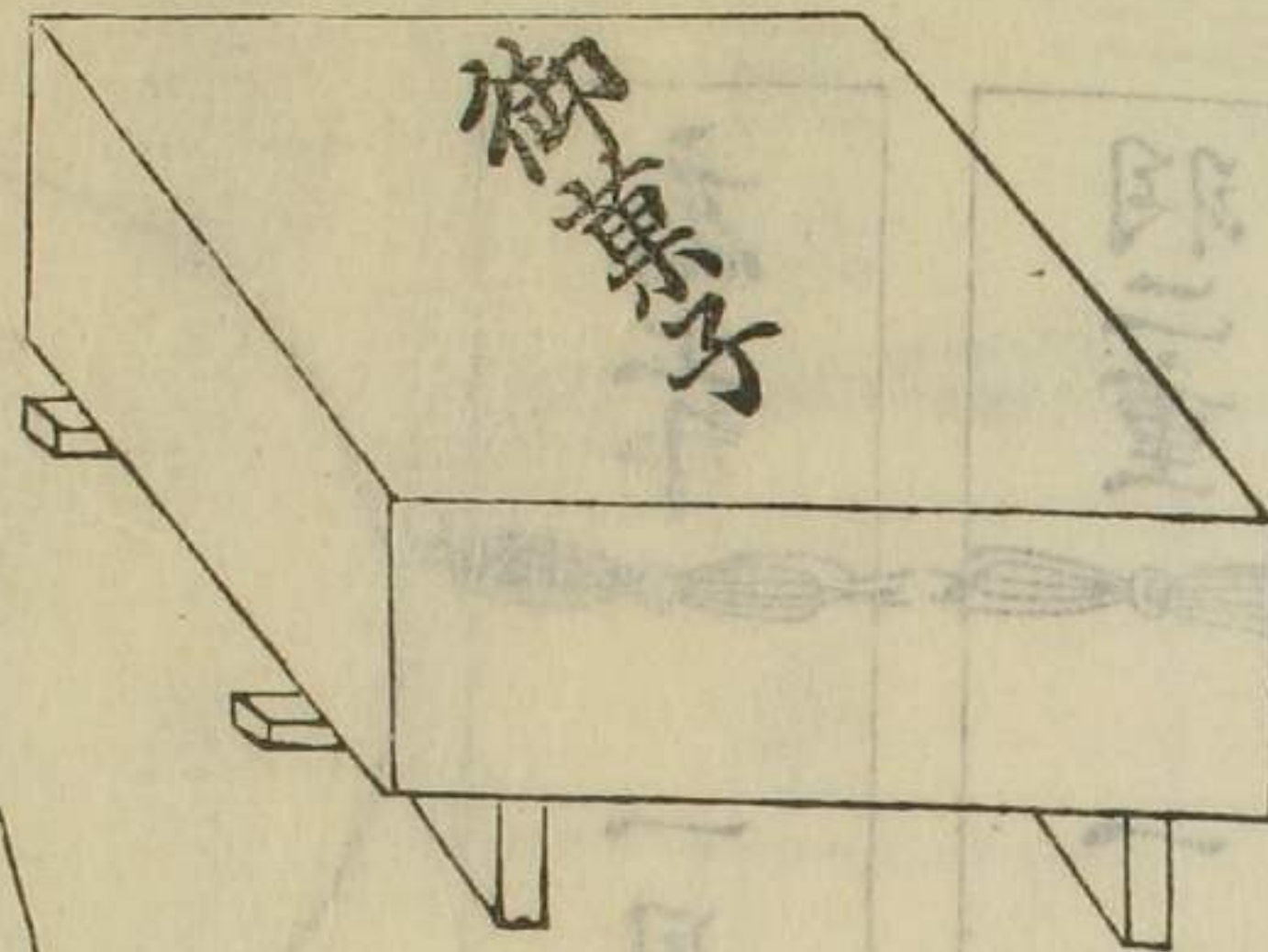
一ひと足あしある筈はずは板いた

目め接つはさへ

長ながくても口くち角かく

みくとも口くち角かく

あへ



昔むかし九こゝろ巻まき用もち字じ考こう

三さん十じゅう

曲物まげものの仕度

一曲物まげものの足あるを足あられもたら

先を向くして板目接よりく

巻物まきものの上包を付く仕度

一上下一具くわの包をくよまを付く

と二具をあらう

麻上下 二具の内 各うは徳

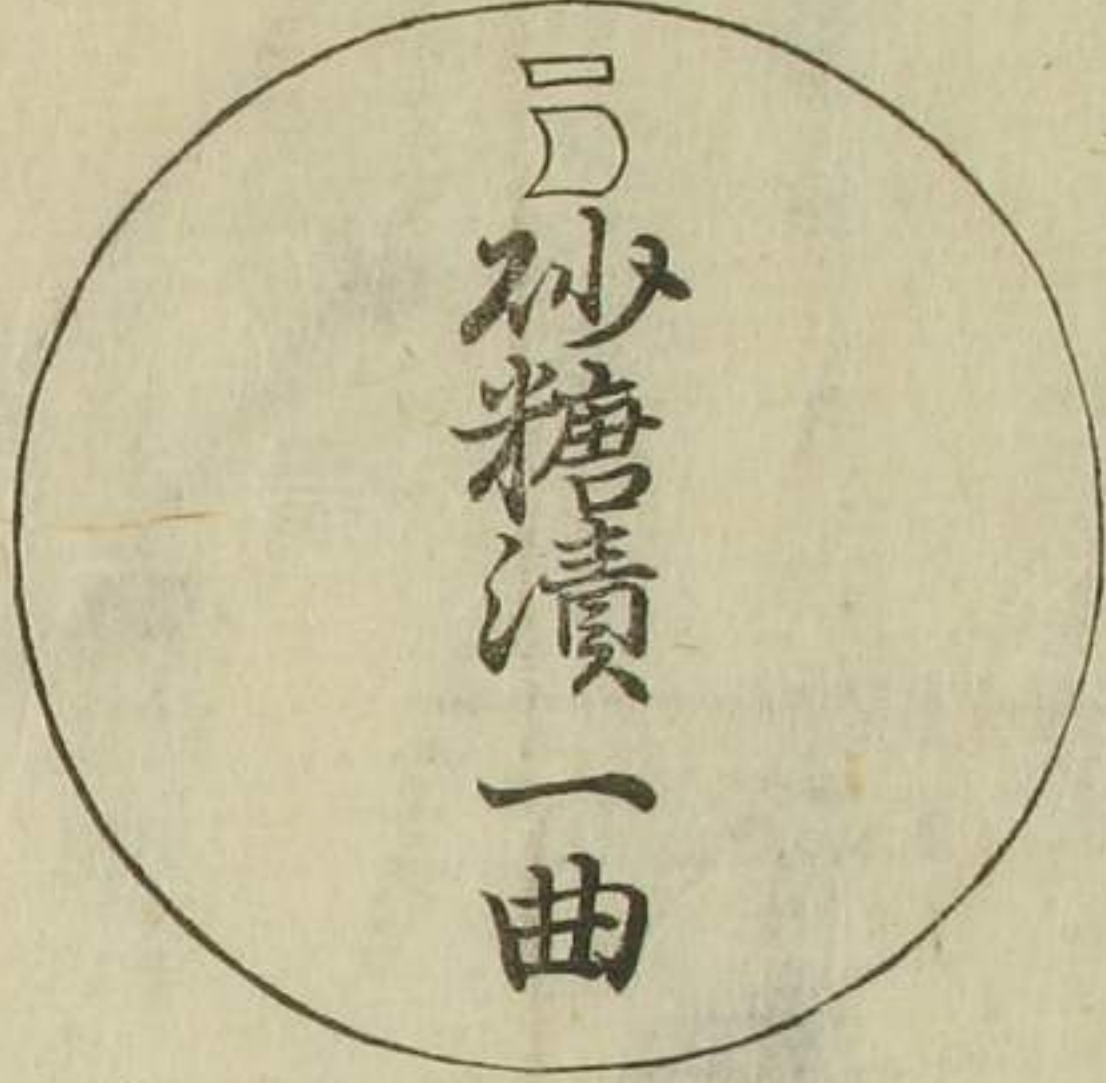
てる巻まきは糸包の付く

反物えもの一疋の包を付くはあら

たふの 羽二重 五疋の内と

徳あり

右反物えものの仕度



麻上下 一具

羽二重 一疋

縮緬 一卷

綸子 一卷

右織物オリものの折く包てと巻まきくを畧して一表おもて外そともあら

浄帯 一筋

一帯おびへくけふか一筋ひとすぢを

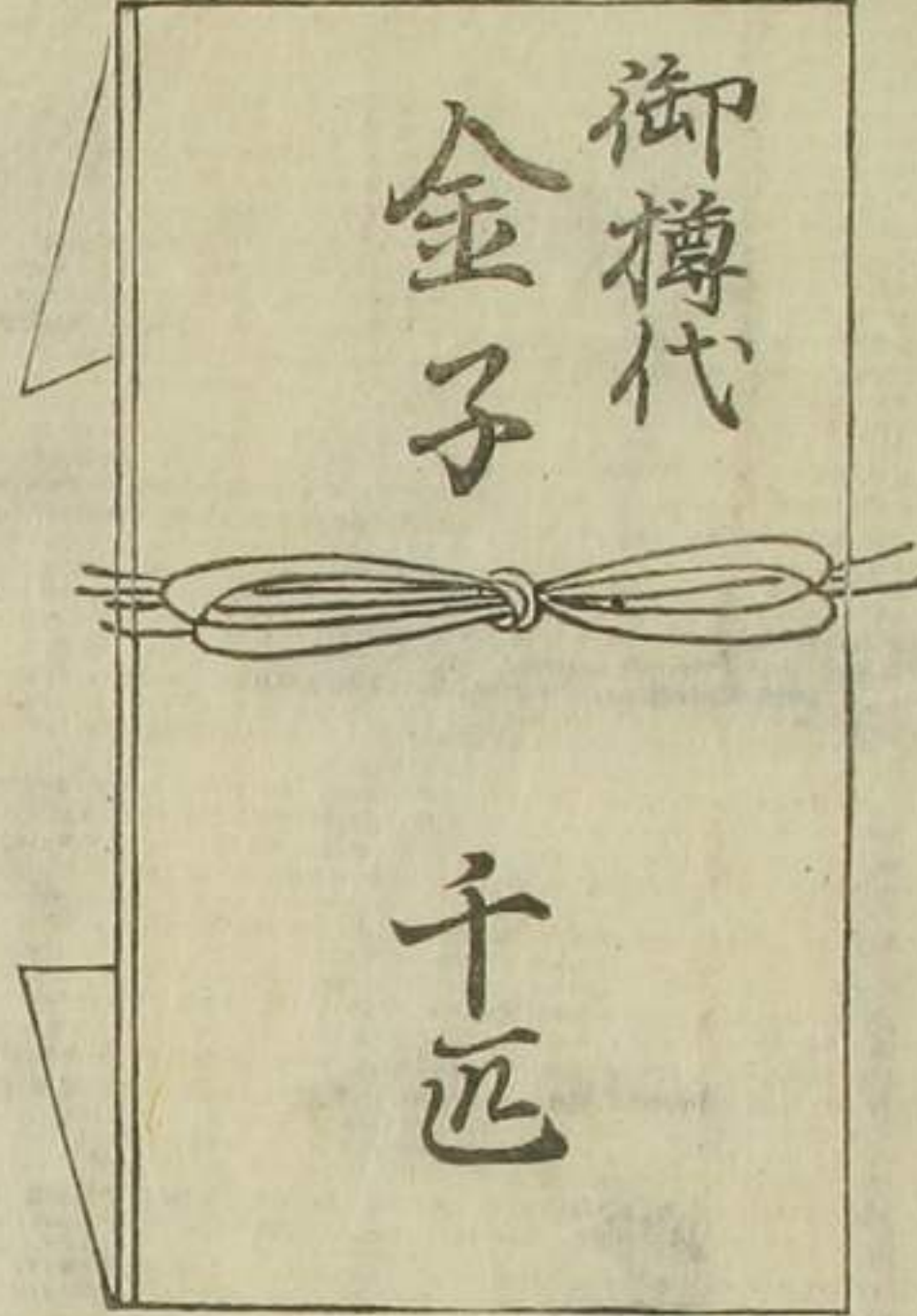
右作り物オリものの或は地ちあくもはあら

金銀上包と下包との区別

御樽代

金子

千匹

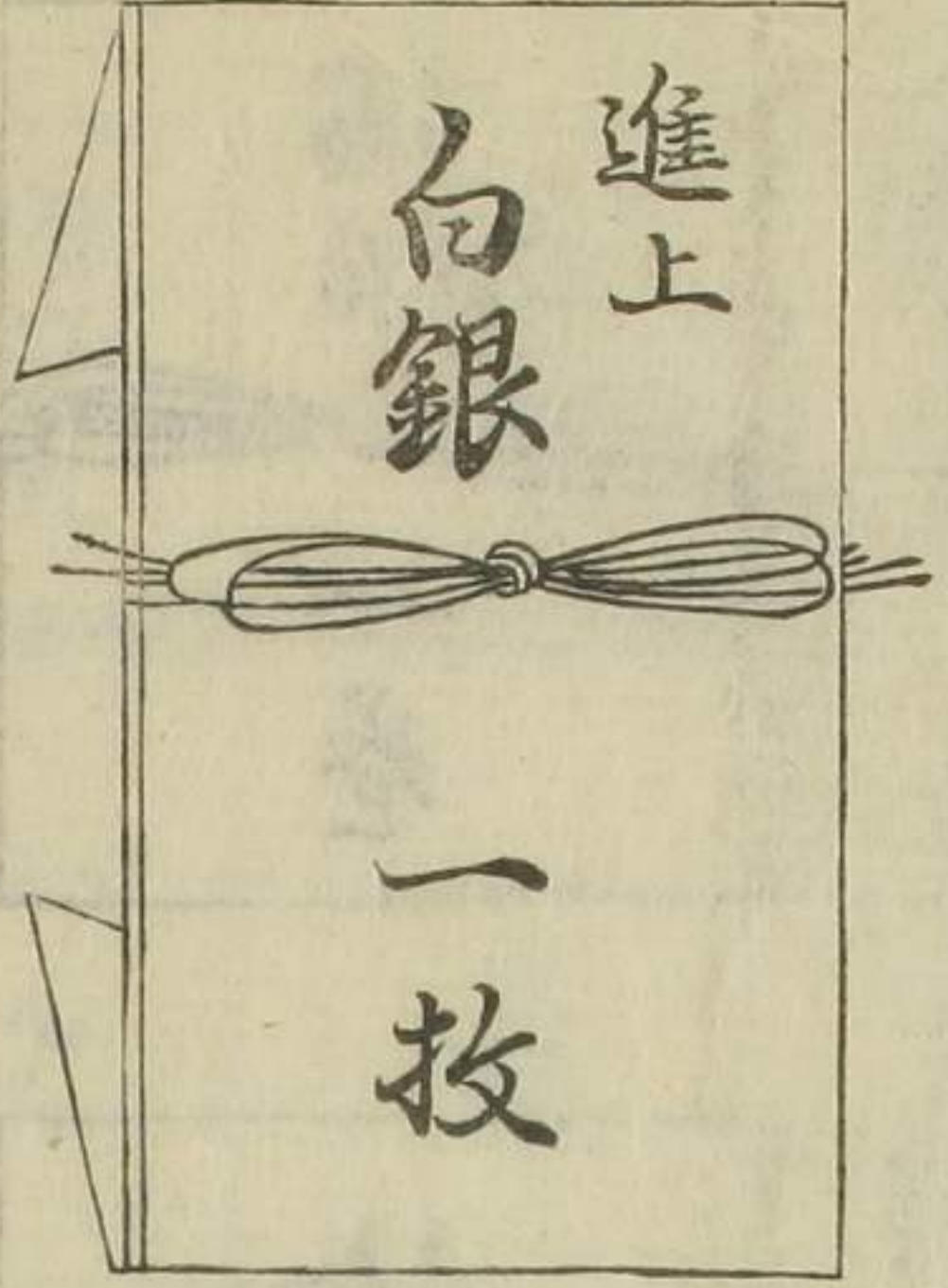


一 金銀上包と下包とを区別して
上はと下はとを区別して

進上

白銀

一枚



一 白銀一枚より二枚より三枚より
銀子三枚五枚一両より
も大分小分より区別して
はらとと分けの区別

右巻ふのせ包の区別

一 関字と次字

仔細糸 三つがはる
好る中何れも区別
少許を区別して下包
はと上包とを区別して
糸を区別して区別

月日

一 一字の関二字の関三字

と一関字と二と三と上は一
初めの字と二と三とあり
ありあり

仔細糸。三つがはる一字
仔細と区別糸。○○
三つがはる。一一一一
ある一初めの区別

一 区別と区別の区別

一平出く率

一筆啓とはいふ心
 右紙を汚す多指く候
 此物く色は紙系不
 明淨白は汚す候
 此を汚す候は
 汚す候は汚す候
 此を汚す候は

月日

一本初まのあは一字上
 くまとまの曲まは
 あり

一筆状まは文とてはあ

一書状系後相意不まお意く決意

一筆一物まのまゆとてたの上おを相儀とてお意
 のまあり

一書紙まのまゆとてたの上おを相儀とてお意
 やとてたの上おを相儀とてお意のま一筆まのま
 一書紙まのまゆとてたの上おを相儀とてお意のま一筆まのま
 一書紙まのまゆとてたの上おを相儀とてお意のま一筆まのま

一書紙まのまゆとてたの上おを相儀とてお意のま一筆まのま
 一書紙まのまゆとてたの上おを相儀とてお意のま一筆まのま
 一書紙まのまゆとてたの上おを相儀とてお意のま一筆まのま

おのりしりしり

一物と信を達し

わは繁結ゆりし

光智寺坊住

とて決

月日

一るうよ上おありてお
まの極くしりしりしり
ありを文言の決まり
しりしりしり

おのりしりしり

一筆

おのりしりしり

おのりしりしり

おのりしりしり

おのりしりしり

おのりしりしり

は

おのりしりしり

おのりしりしり

おのりしりしり

おのりしりしり

月日

一女中

おのりしりしり

おのりしりしり

おのりしりしり

おのりしりしり

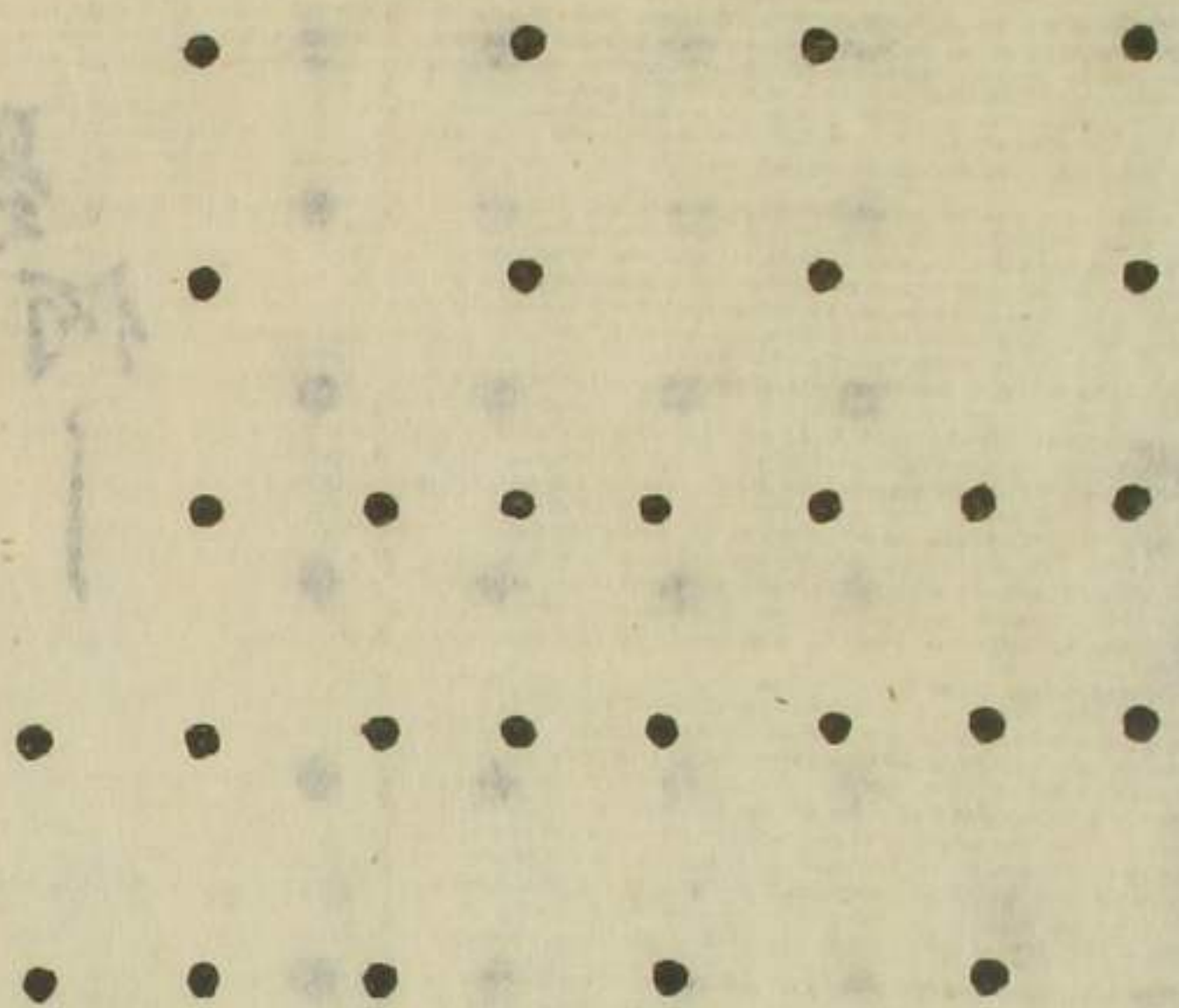
おのりしりしり

おのりしりしり

諸礼常用集

三十三

題



何系百録

割札 個々の次第

禁制

一何、——之奉

一何、——之奉

一何、——之奉

右壁、——

何年何月日

諸凡の用字集

一七言 終句四字三言よと

了古今 例あり末一

初ハ五字二言少と時宜

よ一うべー

一當時多くよと一うらー

くきふるんよ免らう

見らうとと一其初まハ

好よ一うべー

本初（せんり）の字次（しり）と何一とよ

と出一年号月日一初

よと法あり

一横折（よこがし）の紙よハ初年号とと

月日とた方うとよせお

下ケくよ

一何年

何月日

るうりやべー

二三二

一 十炷香記録徳中うの決意

十炷香く記

本一二三二二二二ウ二二二

山栴 一二二二二二二二二二

菖蒲 二一一

初施 一一一

水仙 一一一

緑竹 一一一

何月何日

一 札の入り記録何と
くうりきあり

一 何々名紙のつた徳中う

宇治山香く記

口のひなく

名紙 却る多う

日 ころのいなく

日 きのそとむ

日 しのひあり

日 くらうらむ

月日

一 香よりりふくあといふ
とと名紙のつた
くくわのてくく又た
とと名紙のつた
くあり

一方分くせり

名所香之記

菊野方

梅花

杏枝

新田方

紅葉

竹露

月日

一方分り色くみん

札の故いん教経く

一妻く香云又んり

あまのまうことうり

要書の次方とん抄

そのと

包状清書并以書く次方

包状

任務海明清方相切り

吾候清書入い

月日

紅葉

次方

何

換

何

換

何

換

何

換

清書入の方りせり

書いたの方りせり

略書入の方りせり

かきく書り

例年換

一 色名状と比多

註 色名用集巻下

一筆

之 腹 儀 云

何月何

一何	二何	三何	一何	二何	三何
一換	二換	三換	一判	二判	三判
多	多	多	多	多	多

一 換状もくも名の比多は
 名もくも一先の名を
 一より比多もくも一より
 の名名の奥儀をあり
 一お平の名よを比とよ
 一とく但月日の名の方よ
 一一人を月日の名よ判
 一より比多八月日の名よ書
 一書の名よ一上包の
 の上をより比多

一何	二何	三何	一何	二何	三何
一換	二換	三換	一判	二判	三判
多	多	多	多	多	多

一 上包の



一 右の毎筆換の紙は前より
 一 人の教多し又いそ
 一 多しハ大方換拍紙の状あり
 一 宛不あるもあふ裏
 一 一より比多あり平前の
 一 一教も同

諸凡書用集巻下

三十一

一 何 一 換
二 何 一 換
三 何 一 換
糸入

一 糸
二 糸
三 糸

一 糸
二 糸
三 糸

何 何 何
何 何 何

一 吾画之状 個々の文章と大抵志の
指推ハ時宜しとらりん中とらりゆべ

何 糸 換
糸 糸
月 日
何 糸 列

何 糸 換
糸 糸
月 日
何 糸 列

一 糸 換
糸 糸
糸 糸

東海を歌いけり一等

鈴鹿とい先心と船渡家

山お積り如目も方々

海ら名座つけあ積り

を後い後表山程

中々たをい集山

つらあをい後積り

月日 何一

何一 何一

何一 何一

一 け書面養子とれら

一 入流の信方も志のん

あくかく指推あつと

そのくを物のふい分

月無く夜るい合

あを送るる一

吊状と次

一 しく死とむし書状九方と記と

何事後山後久くく山病氣直書生ホ云就山山

定動山死去く限残念あひ怪く各換山越傷山

入い為山り葬妙新山山山

月日

何と後山死去く山終言後山何後揚方山山念て

山山山山山山山山山山山山山山山山山山山

月日

右いりやうととと物と人と

あふべーお果とととぬとのくあも不魚のらあくあ

さふとたお果とととんさの文言の死去ととと

いりくふく又言あり畧く帛又よは悔くふく
見ん拜と云てり

送物送物と云

一 一筆致砂上いけ不味抹たる具はたは地を何事か
並り入は後いは名はく仁系は採納てふらふ

月日

右に方よりい何系を物と云ぬの之只物と云る人
よりはくるとん地身ては後方よりい何一は書物を
下と交ぬて一交納して去るさあり

何後宿坊の物

覽書

- 一 何一 何後
- 一 何一 何後
- 一 金子

右に何事か為は書物
送物之何後之い何物

年号月日 何後 何到

何事か

一 何後宿坊何堂の品
一 何家より物と何物も
大くは後物と云る
是後物と云る

一 糸くく 沓申くやうよまきり押添くく 沓用くく 一 是
と上申下の心切の文字のまじりまきり分つて一 沓申の
糸侍も沓申とみえ一 糸くくまきりくく一 糸くくみえ
まじりくく一 糸くくまきりくくおきあふく一 女申方
の糸くく一 沓申の糸くく一 沓申の糸くく一 沓申の
糸くく一 沓申の糸くく一 沓申の糸くく一 沓申の糸くく

返札銀付の次

一 糸くく 沓申 或は沓報 沓返報 沓くく一 沓申の
糸くく一 沓申の糸くく一 沓申の糸くく一 沓申の糸くく
糸くく一 沓申の糸くく一 沓申の糸くく一 沓申の糸くく

沓貴くく 文字の次

一 沓報の沓りよはけふらありたくと一 沓報の沓りよはけふらありたくと一 沓報の沓りよはけふらありたくと一 沓報の沓りよはけふらありたくと

沓報の沓りよはけふらありたくと一 沓報の沓りよはけふらありたくと一 沓報の沓りよはけふらありたくと一 沓報の沓りよはけふらありたくと

沓文字の次

一 沓代の上申中 沓下申 沓用の沓の沓きみく 上下の
沓別ありふらありたくと一 沓別ありふらありたくと一 沓別ありふらありたくと一 沓別ありふらありたくと

沓種くく 文字の次

一 沓き 沓進上 沓報
沓の沓りよはけふらありたくと一 沓の沓りよはけふらありたくと一 沓の沓りよはけふらありたくと一 沓の沓りよはけふらありたくと

沓くく 文字の次

一 沓の文字上まきりよまきり糸くく沓申の沓申又沓申の沓申
あふらありたくと一 沓の沓りよはけふらありたくと一 沓の沓りよはけふらありたくと一 沓の沓りよはけふらありたくと

封之平

うらうよ物くうらうよ物く

封糸札の次第

年始汚れ

何糸

一上よのりさつ
あひー下よのりさつ

夏布は見舞 何糸

うらうよ物く

何糸物く付札の次第

扇子

一箱

朝

一物

何糸

汚酒

一樽

一こ女中にやうしよのれ先のりの糸
切幅きりのお糸のり一

并装束

二組

一女中にやうしよのれ先のりの糸

汚さ物

三樽

何一

おしり

とさつーとさつ
うらうよ物く

右の各物お封糸のりのつた目録と略しうらうよ物く
先考汚れとさつと日用の汚物とありとさつとさつ
汚しとさつとさつとさつとさつとさつとさつとさつ
らうぶーとさつ

言ノ御用集卷一

一十子

甲こう 乙い 丙へい 丁てい 戊ご
巳し 庚こう 辛しん 壬にん 癸み

一十二支

子し 丑ちう 寅いん 卯ぼう 辰ちん 巳し 午ご
未び 申しん 酉ゆう 戌ごつ 亥がい 子し

一曰方口隅文字の次序

東とう 西せい 南なん 北ほく 乾けん 艮がん 巽しん 坤こん

繪馬去りの次序

豎

奉懸御寶前

年号何月何日
願主
某

横

奉納御神前

年号
月日
何某敬白

言ノ御用集卷一

言ノ御用集卷一

献立書中の次第

御献立

御口祝
包の
さうり

○本膳之献立

箸

紙一枚之但何枚
みくも厚くはし

膾
|||||

蒲鉾

汁
|||||

焼物
|

煮物
|||||

香物
||

飯

○膳

差躬さうごん

教子きょうこ

和物わもの
|||

汁じゅう
|||

○二ノ膳

辛から螺ら

汁じゅう
|||

忍しのび

焼やき鳥とり

○日向ひょうか諾だく

但ただ巻まき引ひきあり

小こ鯛たい

○五ご向きょう諾だく

但ただ巻まき引ひき

塩しほ引ひき

○五ご向きょう諾だく
酒さけ吸すい物もの
肴さかな扱あつか肴さかな
押おし物もの

引ひき菓くわ子こ

何月何日

御缺立ごけつたてに次つぎは

沙ひき引ひき酒さけ

昆布こんぶ二

粟あわ号

孟もう五ご

雙針すおうしん二に本ほん

雙針すおうしん二に本ほん 雙針すおうしん二に本ほん 雙針すおうしん二に本ほん

沙さ雜ざ煮に

六む中ちゆう免めん二

梅うめが二

沙さ吸あ物ぶつ

條じょう

條じょうの 條じょうの 條じょうの

箸しゆ付つ

の 心

沙さ酒しゆ 但た冷れい酒しゆあり

鈍どん子こ

提てい

沙さ本ほん膳ぜん

膾かい

糞ふ物ぶつ

香かう物ぶつ

網あみ

箸しゆ

沙さ二に括くわつ

飯い汁じゆ

箸しゆ

子牙 つり酒

浄三猪

うまほと きりりめ

白諾 しつづら

小鯛 こがひけ

盃 さぐさ わりきり

温酒 かん 湯み

了者 ひき 小鳥

吸物 あひ

挨拶 あはれ

組重 くみ とらふん ごまめ

水肴 みづ

浄菓子 じやう

三粒 さん

楊枝付 やう

汁 しる

汁 たれ

詩の書用集卷一

四十四

浄落茶 うとらや 或ハ流茶 ゑらや

後服 ごふく 浄缺立

知らんるん

吸るの

五者ふくあふべー一あふべー一あふべー一あふべー一

何月何日

右缺立ふくあふべー一右缺立ふくあふべー一

能く書組去やうの次頁

何月何日 浄能番組

箱 面箱

千茶 名

三書 名

振報 名

名 名

大下 名 小下 名

名 名 名 名 名 名

諸氏當用集卷之終

五

間

末廣

名

名

名

名

田村

名

名

名

名

間

那

名

名

名

熊野

名

名

名

名

祇園山伏

名

名

名

名

榑川

名

名

名

名

名

祝言

名

名

以上

右の類と云ふは均あらず

諸氏當用集卷之終

諸氏當用集卷之終

五

右當勞書札集寔日夜之用書
後家口傳等令描寫之尤以容
易不可有之也

蘇名中教

天地のひらき始りしより皆自然なる理
ありんか万物の具ありれと知らざるは
何れを以て之を徒と云ふやれはる早も
も立つてしる事或人け書と家即り乞
梓よらるるめく法れ當用集と名つあせ
のしるし月も知るこ中りしるく教百々條の
たきり成始よ志かこし然又奥書とも加
はるかあきとりしるまうこひしは

幸々物々吉凶の書物多し
海々古々海々々々々々々々々々

まろろろろろ

之原本正之按書

明和二年酉正月吉日

京都

書林

寺町通松系上几町

菊屋七郎兵衛

寺町通蛸茶屋下几町

秋田屋平右衛門

建仁寺町通三條下几二丁目

加賀屋卯兵衛合

数屋町通笠屋下几町

八文字屋八右衛門

二条通数屋町東入町

山本長兵衛版

二条通寺町西入町

柏屋四郎兵衛

堀川通佛光寺下几町

錢屋七郎兵衛

諸事書用集

